



第1回 伯太地区4小学校 再編地域協議会（仮称）

～安来市立小中学校の目指す望ましい教育環境の整備に向けて～



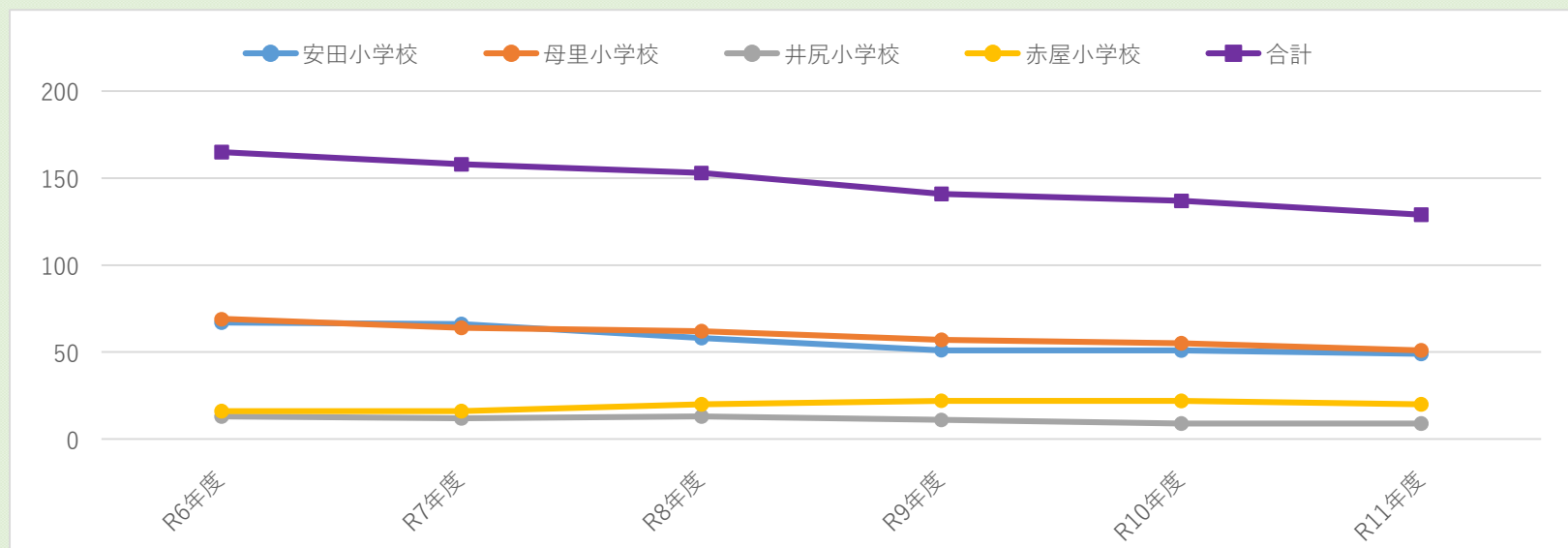
安来市教育委員会

児童数の推移

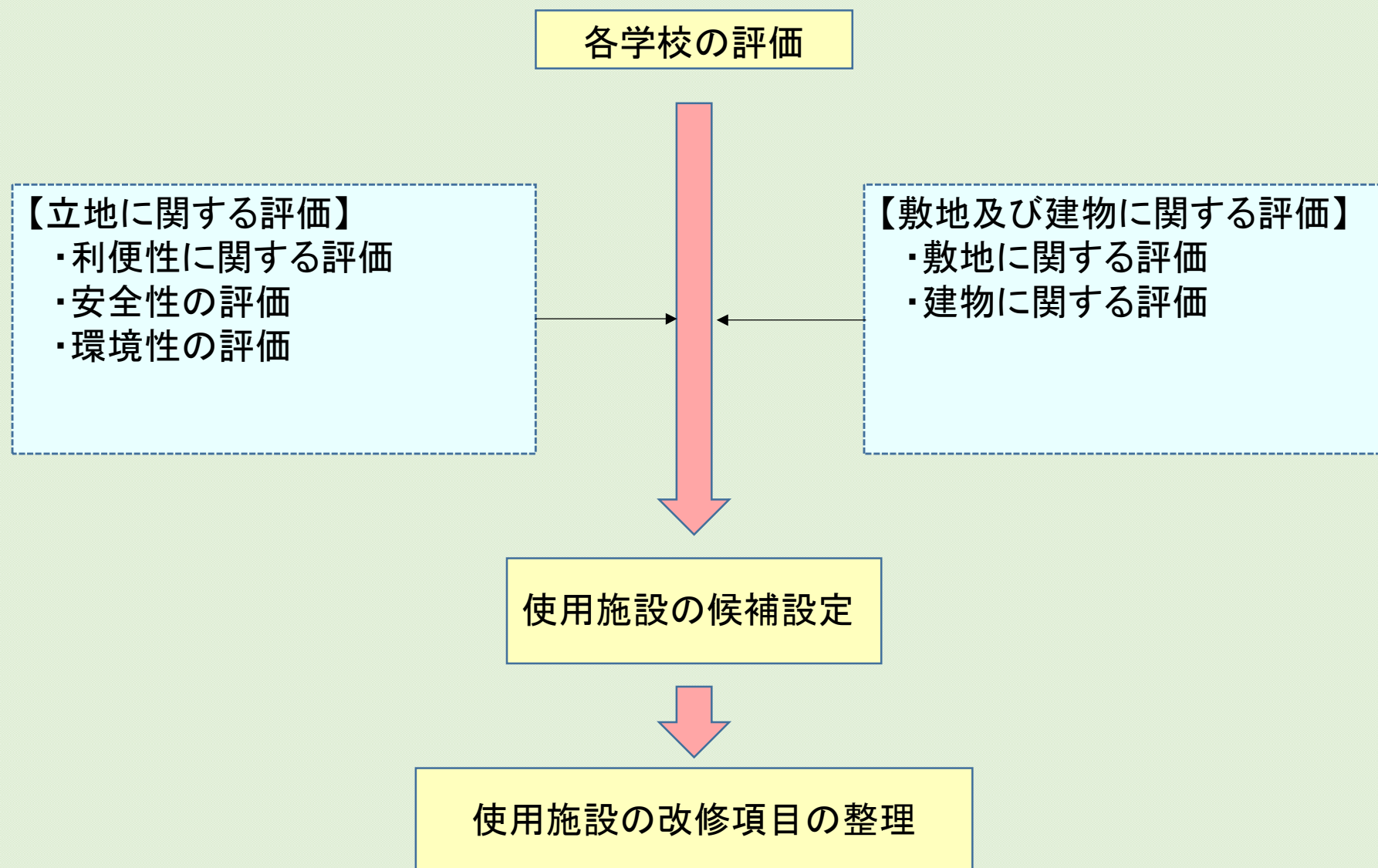
◆児童数の見込み(人)◆

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
安田小学校	67	66	58	51	51	49
母里小学校	69	64	62	57	55	51
井尻小学校	13	12	13	11	9	9
赤屋小学校	16	16	20	22	22	20
合計	165	158	153	141	137	129

※島根県児童数及び標準学級数調べ（R6.5.31現在）



小学校の選定フロー



1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

① 利便性に関する評価

児童が通いやすい環境にあるか、また保護者などが送迎や行事等で来校する時のアクセスの容易性について評価した。

項目	考え方	指標	重み 係数
児童数	より多くの児童の通学時間が短い方が児童の負担が少ないことから、学校に近い児童数で評価する。	2km 以内の児童数 (R11)	3
	同様の考え方で、徒歩圏内の児童数が多い方(バス通学者が少ない方)が通学の自由度は高くなるので、その児童数で評価する。	4km 以内の児童数 (R11)	3
アクセス	校区が広がることで、バス通学者が生じる可能性がある。将来スクールバス等のバスの乗りつけの容易さを評価する。	小型バスの通行が 可能なルートの有無	1
	自動車の通行に支障のない幅の道路に接していれば、保護者や学校関係者の利便性が高い。	アクセス道路までの 距離	2

※ 町丁目別の集落人口中心部を設定し、そこからの通学距離(道のり)を想定し、町丁目毎に通学距離を計測し、範囲内の児童数を集計する

1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

② 安全性に関する評価

防災の観点から災害のリスク、通学時の安全性、防犯や緊急時の備えとしての安全性について評価した。

項目	考え方	指標	重み 係数
災害リ スク	【洪水】 検討する学校は、飯梨川、伯太川の流域にあり、洪水被害が広い範囲で想定されている。 洪水被害の危険度として浸水深で評価する。	浸水想定区域の有無、浸水深(想定最大規模)	2
	【土砂災害】 山麓部には土砂災害警戒に指定されている所が多くある。土砂災害は前触れもなく発生することが多いことから、危険度は高い。	土砂災害警戒区域等の有無	2
	【既往災害(水害)】 大きな氾濫災害だけでなく、過去の冠水などが発生などによる危険性について評価する。	過去の水害発生の有無及び近接性	2
	【既往災害(地震)】 地震については、どこでどの程度の規模の地震が発生するか予測が困難であるが、近隣地での地震発生(鳥取西部地震)時の被害状況で危険性を評価する。	過去の地震による地盤被害の有無	2
交通 安全	通学時の交通安全の評価としては、登校時の最寄りの自動車交通量で評価する。(交通量が多いと事故発生の可能性が高くなる)	隣接道路の通学時間帯の交通量	1
安心	防犯上の観点から、近くに警察署や駐在所などがあれば、比較的安心度は高まる。	警察署・駐在所からの距離	1
	校内での事故や緊急対応として、消防車や救急車ができるだけ近くにあった方が安心度は高まる。	消防署(本部・分署)からの距離	1
	緊急時に救急搬送される救急告示病院までの距離を評価する。	救急告示病院からの距離	1

1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

③ 環境性に関する評価

一体的な利用などによる利便性や効率性の観点から連携利用が期待される他の公共施設との近接性や学ぶ環境(騒音などが少なく、静かな環境や地域資源を生かした自然体験学習など)について評価する。

また、インフラ環境としては、維持管理費の縮減の観点から、污水处理の状況を評価した。

項目	考え方	指標	重み 係数
周辺 施設	放課後の居場所として、放課後児童クラブが近接していれば利便性が高い。	放課後児童クラブの有無	1
	放課後のちょっとした居場所やバス通学のちょっとした待ち時間が過ごせる場があれば連携利用が期待できる。	休憩・学習施設(図書室など)との距離	1
	学校と地域の交流の場としての活用が期待できる。	地域交流センターとの距離	1
	中央交流センターや比較的規模が大きいホールなどあれば、学校行事(音楽祭、学芸会など)との連携利用が期待できる。	交流ホールとの距離	2
	周辺に体育施設があることで、練習や大会など柔軟な対応ができるので、体育施設との近接性について評価する。	市民プールや市立体育館などの距離	2
	地域資源を活用した自然体験学習ができることも一つの魅力となると想定されることから、それらの自然環境が近くにあるかどうかを評価する。	自然環境の有無	1
	騒音などが少なく、静かな学習環境を備えた所の方が集中して学習できると想定されることから、工場などの騒音発生施設(特定施設)がない方が良い。	騒音を発生させる可能性のある特定施設との近接性	1
イン フラ	浄化槽方式より下水道方式の方が相対的に維持管理費が軽減されことから、污水处理方式の現状を評価する。	浄化槽方式かどうか	2

1) 立地に関する評価

立地している場所の利便性や安全性、環境性等を評価した。

立地に関する評価（安田・母里・井尻・赤屋地区）

評価項目	安田小学校	母里小学校	伯太中学校	井尻小学校	赤屋小学校
	得点	得点	得点	得点	得点
立地に関する評価					
利便性に関する評価	31	30	30	16	13
安全性に関する評価	23	19	19	31	25
環境性に関する評価	25	41	41	20	20
	79	90	90	67	58
	87.8	100.0	100.0	74.4	64.4

2) 敷地及び建物に関する評価

現有している敷地や施設の状態から、継続利用する場合の適正性について評価した。

① 敷地に関する評価

規模及び地形の状況などから継続利用する場合の柔軟性や土地所有の状況による持続性・費用性について評価した。

項目	考え方	指標	重み 係数
面積	【敷地】 敷地が広い方が、今後の維持修繕や増築、建替などにあたって柔軟性が高い。	校舎とグラウンド敷地の合計面積	3
高低差	主には校舎やグラウンド等に高低差があることで、利用しにくくなる場合がある。高低差が少ない方が利活用で柔軟に対応できる。	校舎とグラウンドの高低差	1
敷地 分断	敷地や施設が道路などで分断されていると移動時等で危険が伴うことが想定されることから、分断度について評価する。	校舎とグラウンド・体育館などとの分断の有無	1
土地 所有	学校によっては、一部借地が含まれている。持続性や費用性の面から、借地が少ないほうがよい。	借地面積	2

2) 敷地及び建物に関する評価

現有している敷地や施設の状態から、継続利用する場合の適正性について評価した。

② 建物に関する評価

規模、老朽度、健全度、法適合、設備及びエネルギーの観点から継続利用する場合の容易性、持久性、効率（経済）性などについて評価する。

項目	考え方	指標	重み 係数
規模	【校舎】・【体育館】 校舎の規模も大きい方が柔軟性は高く、継続利用しやすいと想定する。	延床面積	2 (体育館は1)
	【学級教室の数】 学級教室の数が多いほど、通常学級の他、支援教室や多目的室等の確保に柔軟に対応できる。	学級教室の数	2
	【学級教室の面積】 統合により学級の人数が増えるので、より大きい方が柔軟に対応できる。	学級教室の面積	2
	【トイレの個数】 将来の児童数に対するトイレの数で利便性の評価を行う。	トイレ個数の充足率	2
老朽度	【校舎】・【体育館】 古い建物の方が老朽度は高く、今後の継続利用ができる期間が短いと想定する。ただし評価にあたっては大規模改修等の状況を考慮する。	建設年 大規模改修年及び内容	2 (体育館は1)
健全度	【校舎】・【体育館】 12条点検が実施されており、現状の劣化状況を把握し、今後必要な改善の度合いで評価する。その指摘状況を点数化し、評価する。	指摘事項の箇所数を点数化したもの	2 (体育館は1)

2) 敷地及び建物に関する評価

現有している敷地や施設の状態から、継続利用する場合の適正性について評価した。

法適合	【校舎】 校舎における消防法や建築基準法などの適合性を確保するために、改修が必要かどうかを評価する。 ・ 堅穴区画、階段、教室から階段までの距離、転落防止の措置など	改修工事の規模感で評価	1
バリアフリー	【校舎】・【体育館】 車いすなどでの利用性について評価を行う。	スロープの有無・形状 多機能トイレ	1
機能性・拡張性	【校舎】 機能性として配膳や小荷物などの運搬の容易性、拡張性として、教室を拡大できる余裕があるかどうかを評価する	エレベータ、小荷物用昇降機の有無 廊下の幅	1
エネルギー	【高効率設備対応状況】 エネルギー消費の少ない冷暖房設備を評価する。	冷暖房方式	1
	【一次エネルギー原単位 (GJ/年・㎡)】 暖房や照明などの効率性の指標として、現状の㎡単位のエネルギーを評価する。	年間電気料金、使用量	1
	【二酸化炭素排出量原単位 (kg-CO2/㎡)】 建物のエネルギー効率性の評価として暖房の熱源などとして利用しているガスや油類の㎡単位のCO2排出量についても評価する。	年間燃料費、使用量	1

2) 敷地及び建物に関する評価

現有している敷地や施設の状態から、継続利用する場合の適正性について評価した。

敷地及び建物に関する評価（安田・母里・井尻・赤屋地区）

評価項目	安田小学校	母里小学校	伯太中学校	井尻小学校	赤屋小学校
	得点	得点	得点	得点	得点
敷地及び建物に関する評価					
敷地に関する評価	26	7	26	26	22
建物に関する評価（校舎）	38	38	64	48	22
建物に関する評価（体育館）	3	2	11	2	8
校舎のエネルギー効率	5	7	9	7	7
	72	54	110	83	59
	65.5	49.1	100.0	75.5	53.6

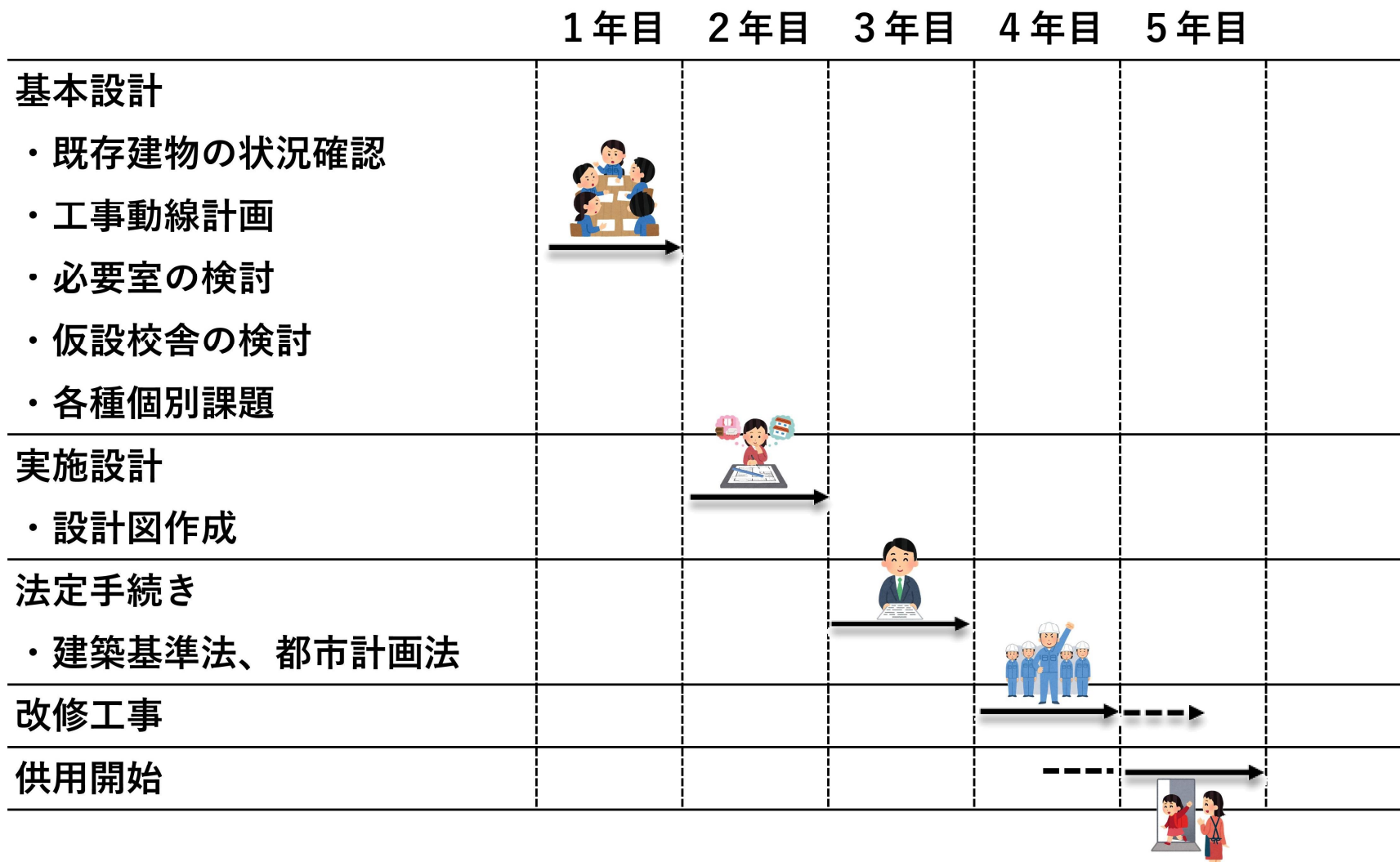
3) 総合評価

校舎	立地に関する評価	敷地・建物に関する評価	総合評価
安田小学校	・周辺の児童数が多い ・幹線道路に近接している	・敷地面積が広い ・廊下の幅にゆとりがある	
	・土砂災害へのリスクがある	・校舎及び教室の面積が狭い ・校舎及び体育館の老朽度が高い	
評価点	79	72	151 (75.5)
母里小学校	・周辺の児童数が多い ・幹線道路に近接している	・廊下の幅にゆとりがある	
	・アクセス道路が狭い	・敷地及び校舎や教室の面積が狭い ・校舎及び体育館の老朽度が高い	
評価点	90	54	144 (72.0)
伯太中学校	・周辺の児童数が多い ・幹線道路に近接している	・敷地面積が広い ・校舎や教室の面積が広い	立地及び敷地・建物の両方で優位
	・アクセス道路が狭い	・極端に評価が低いものはない	
評価点	90	110	200 (100.0)
井尻小学校	・幹線道路に近接している	・敷地や教室の面積が広い ・校舎の老朽度が低く、健全度が高い	
	・周辺の児童数が少ない	・校舎の面積が狭く、教室数も少ない ・体育館の規模が小さく、老朽度が高い	
評価点	67	83	150 (75.0)
赤屋小学校	・幹線道路に近接している	・敷地の面積が広い ・体育館の規模が大きく、健全度が高い	
	・周辺の児童数が少ない	・校舎の面積が狭い ・教室の面積が狭く、教室数も少ない	
評価点	58	59	117 (58.5)

※ 各学校で上段が主な優位な点、下段が主な懸念される点。()内は最高点を100とした場合の指数

4) 改修工事の一般的なスケジュール

- ・ 改修工事をする際には様々な検討や手続き等が必要です





**わたしたち大人が
未来を生きる子どもたちのため
今 考えるときである**